

覚せい剤依存に対する 外来治療プログラム

薬物依存に対する治療レビューと
外来治療プログラムの提案

原井宏明 西山浩介 高木健志 田中裕之 丸尾結香 下原宣彦

国立療養所菊池病院 臨床研究部

治療研究から

- 米国で薬物乱用対策は大統領直々の政治課題である。バイオ・メディカル研究も重点課題である。薬物依存治療に関するRCTがあり、心理社会的治療の効果が出ている。
 - 心理社会的治療方法間の比較研究(Project Match)にて臨床的な優位な差はでなかった。
 - 薬物療法にも効果があるが、効果のかなりはコンプライアンスによって説明される。心理社会的治療が前提
-

治療ガイドライン

- NIHのConsensus Statement Report (NIH, 1997)
 - アメリカ精神医学学会の治療ガイドライン
 - Center for Substance Abuse Treatment
 - Treatment Improvement Protocols
 - 覚せい剤に関しては, Rawson(1999)
 - Matrix Institute
 - <http://www.samhsa.gov/csat/csat.htm>または
<http://www.health.org>で入手可能である。
 - オーストラリアNational Drug and Alcohol Research Center
-

Meth-amphetamine

- 米国ハワイ, 西海岸ではメジャー
 - 10年前から広がり, 今ではコカイン, ヘロインを抑える
 - 問題使用が起こるまでに10~15年かかる コカインより長い
 - 1ヶ月間は“認知障害”があり, 教育内容が頭に入らない. 1ヶ月のプログラムでは短い
 - 1ヶ月以内のドロップアウトが多い Dex-amphetamineの投与により脱落を減らしたRCT(White R.2000, NDARC)
 - 臨床試験結果はこの2,3年
-

治療ガイドラインのまとめ

- アンフェタミンについてもエビデンスが蓄積され、効果的な治療法がわかっている。詳細な治療ガイドラインが刊行されていた。日本での臨床試験はない。
 - シンナーについてのエビデンスは乏しく、効果的な治療法はまだわからない。
 - 日米では貧困者問題や全般的な犯罪率、医療保険制度、物質乱用に関する規制法、患者の受診行動、違法性薬物の使用率などに桁違いの差がある。有効な治療方法を、どの施設で、誰が行い、治療費を誰が負担するか、については日本独自に工夫する必要がある。
-

KAT-P Kikuchi Addiction Treatment Program

■ 基本的な考え

■ 治療の目標

■ 嗜癖は慢性に経過し再発を繰り返す脳の病気

- 一回の治療で完全に断薬することは期待しない

■ 目標はアナログ的

- 薬物再使用と再使用の間の期間をできるだけ長くする
- 再使用した場合の生活の困難の程度を軽く
- 生活が困難である期間を短く

■ 公衆衛生的観点

- ハームリダクション
- 薬物使用に伴う合併疾患や社会生活上の問題が軽くする

治療の目標

- 非合法性薬物の使用を減らす
 - 非合法性薬物使用に伴う本人が受ける害や障害を減らす
 - 非合法性薬物使用に伴う周囲が受ける害，家族の困難，公衆衛生上の問題(感染症など)や暴力的な犯罪を減らす
 - 非合法性薬物の使用を減らす方法として刑務所収容や長期隔離的入院よりも安い方法を提供する
 - この治療プログラムは「底着き」体験を強調しない。
-

治療の方法

- グループカウンセリング
 - 認知行動療法
 - 心理教育や動機付け面接, 再発予防訓練
 - 随伴性マネージメント
 - 外来治療プログラムにきちんと通院をした場合に記念品を渡すなどの正の強化を用います。今まで散々, 薬物嗜癖のために罰を受けてきた人には特に有効だと考えます。
 - 家族療法と, 12ステップや治療共同体
-

治療に関する説明事項

■ 個人情報情報の保護

- 受診時に患者様から得た情報は警察を含め外には漏らさない。

■ 尿検査

- 必要に応じ行い、薬物使用の有無を調べる。この結果は治療のためにのみ用いる。例えば、クリーンが2週間続けば証明書をもたらえるなど。尿に薬物反応が出たとしても、その結果は警察を含め外には漏らさない。

■ 保護の例外

- 病院敷地内での刑法に触れる行為は警察に通報する。
- 生命の危険がある場合は、救急などに連絡する。

4ヶ月外来治療プログラム

週	毎週月	毎月第1,3,4,5木	毎月第2木
1～4	6～7:30 初期の回復スキル, 再発予防	7:00～8:30 家族教育グループ	7:00～8:30 DARCメッセージ
5～16	7～8:30 再発予防グループ	7～8:30 家族教育グループ	7:00～8:30 DARCメッセージ
17～52		7～8:30 社会サポート	7:00～8:30 DARCメッセージ

受診の仕方

■ 電話相談

- 平日午前9時～午後5時まで 相談担当者 原井, 下原, 丸尾, 田中, 高木
- 電話相談にて外来受診(インタビュー面接)予約

■ アセスメント外来受診日

- 火曜日午前中

■ 内容

- 1時間半, インタビュー, アセスメント, 治療の説明

■ 治療について説明し同意が得られたら, 外来治療プログラムを行う

治療の研究

- 信念に基づく治療と，比較に基づく治療
 - 効果については，効果を調べる特殊な方法でないとはわからない。無作為割付臨床試験などの近代的な方法とGCP規定にしたがって治療法の研究開発を行う
- 転帰調査
 - 治療をやめても5年間の間，生活調査に応じていただくことを了承してもらう